

2014年度受託研究概要報告

壁画制作によるコミュニティスペースの創出 —坂出市民美術館アートプロジェクトをとおして—

研究メンバー

大畑幸恵 先端芸術学部クラフト・美術学科実習助手

委託者

瀬戸内国際芸術祭坂出市実行委員会

研究概要

本プロジェクトは場所との関係性に着目した色づくりを行い、その色を用いた壁画共同制作をとおして、子供たちの絵画制作へのかかわりを深め、コミュニティスペースの創出をはかることを目的とする。依頼は坂出市で、本大学の包括協定締結後、第1弾として実施する。

壁画を描く坂出市民美術館前の壁面は周囲が白い壁で統一された環境にあり、壁画を描くことで、華やかで視線をひきつける環境へと転換していくことが期待される。図案はグリッドを基調としたシンプルな絵柄で、壁面の印象を決めるメインカラーは青とする。塩の産地坂出を「坂出の潮」とかけて、海のいろで壁画を制作する。

プロジェクトはアイデアの協議にはじまり、島々をめぐって行く海のいろづくり、そして壁画制作とつづき、複数の人の関わりによって進行する。約20mにわたる大きな壁面をさまざまな立場の市民が協力してつくり、作品として残ることで、海へのまなざしや創作への思い、美術館に対する愛着を育むことが期待できます。

研究成果

公共の場に残る壁画となることから、プロジェクトの進行計画や図案については美術館・同敷地内の図書館・大畑の間で繰り返し協議を行った。どの年齢層に参加を期待するかも検討事項にあがり、完成度の面や美術館がもつネットワークにより、地元中学生に呼びかけることとなった。それにより、使う塗料の選定、本学大学生が活躍する場面設定も決まっていた。

2014年7月にはクラフト・美術学科学生7名が瀬戸内海(檀石島・岩黒島)で色づくりを行い、壁面の下見や下地塗りをへて、中学生との共同制作に入った。大学生

には使用する色の調整や構図など、ともに意見を出し合いそれぞれが主体的に関われる環境作りを設定し、中学生にはのびのびと制作できるように配慮した。

度重なる長雨、台風直撃は予定変更を余儀なくされたが、美術館の方が TENT を張ったり連絡調整をしてくださったりして、このプロジェクトが強い協力で実施できていると実感した。また広報の面では大変尽力してくださり、テレビ新聞各局において成果を報告することができた。11月にはタイトル公募を行い、2015年2月15日にタイトルの公表とキャプションの取り付けを行う予定である。

壁画制作中から見学の方が絶えずこられ、「明るくなった」「以前と見違える」との言葉をいただいた。壁画の話が出る前の壁は長く放置され劣化がみられたが、このプロジェクトを通して壁画周辺がコミュニティスペースとして新たによみがえったと言える。坂出市からの提案を契機として始まった本プロジェクトは、瀬戸内国際芸術祭を通じて築いた関係をさらに深め、アートが人や街につながっていく機会となった。



